

ミャンマー

LPG回収総合計画(1-2)(2)



本事業により建設されたLPG回収プラント

[借款概要]

承諾額/実行額	15,060百万円 / 15,060百万円
借款契約調印	1982年8月 / 1983年1月
借款契約条件	金利2.25%、返済30年(据置10年)
貸付完了	1987年7月 / 1988年1月

[事業概要]

ミャンマーにおけるLPG開発計画の一環として、LPG抽出プラント及び出荷設備を建設し、LPGの輸出拡大に寄与するもの。

[評価結果]

本事業においては、ヤンゴンの北方約600kmにある油田の随伴ガスを原料としたLPG回収プラント(30千トン/年)を建設し、他の2カ所の精油所からのLPGを合わせた53千トン/年を出荷するためのLPGターミナル及びパイプラインを建設した。

LPG回収プラントは1987年初から操業を開始したが、生産量はこれまで年6千トン前後と計画比2割程度に留まっている。これはガス埋蔵量が想定を下回り、プラントへのガス供給量が計画値の約6割、また、有効成分含有率も計画値の半分以下であったことによる。

他方、精油所からのLPGについても、原油不足等により生産量が計画を下回ったため、全体で見たパイプラインの輸送量は年8~12千トン、計画値の2割前後で推移しており、(精油所設備の増強により2000年には15千トン近くまで増加)供給先についても国内需要の増加により、当初計画の輸出ではなく国内市場向けとなった。

なお、同国初のLPG事業であったが、これまでの技術移転により操業・維持管理は良好になされている。